

いじめ予防授業レジュメ

野 口 善 國

1 導入

はじめまして、弁護士の野口と言います。

弁護士の仕事というと皆さんはどんなことを想像しますか。TVなどで見る、犯人が裁判所で罪を問われている時に、犯人を弁護している弁護士を想像した人が多いでしょう。

そのような刑事事件も、弁護士の仕事ですが、その他に弁護士の仕事というのは世の中に起きたもめ事が正しく解決されるように頑張るということも重要です。

世の中で起きたもめ事を皆がほっておいたら、どのような結果になるでしょうか。強い人とか、ずるい人が自分の思い通りにしてしまうことにはなりません。弱い人とか、のんびりした人は、不当な結果でも我慢しなければならない。そんなことにならないでしょうか。

どのような人であっても、平等に権利が守られ、安心して暮らせるような社会にする。これが弁護士の仕事です。このような仕事は弁護士だけの仕事ではありませんが、弁護士は、法律の知識を利用し、もめ事の解決の経験をいかし、様々な世の中のもめ事を解決しようと頑張っています。

裁判所以外でも弁護士はもめ事解決のための仕事をしているのです。

今日こうやって、皆さんにお話しするのも、弁護士の仕事の一つです。

2 弁護士がなぜここに来たのか

今日はいじめについて、皆さんと一緒に考えたいということでやってきました。いじめというのは、後から詳しく話をしますが、皆さんが考えているよりずっと大変な問題なのです。いじめられた人にとっては生きる権利を奪われたり、長い間幸福に生きる権利を奪われることになり、いじめた人の心にも大きな傷やゆがみを残してしまうのです。

私は何とかこの学校でいじめが起こらないように、また、いじめが起きても大変なことにならないようにしたいと考えて、何かお役に立てればと思っ

3 自分のいじめについての体験を振り返る

さて、皆さんにお尋ねします。

お手元に紙があります。簡単なアンケートです。あとで回収するのですが、名前や番号は書かないでください。誰がどのように答えたかはわからないよう

にするので、安心してください。

これまで自分はいじめを見たことがあるという人は、「1」の問いの答えのうち「いじめを見たことがある」に○をつけて下さい。自分はいじめられたことがあるという人は「いじめられたことがある」に○をつけて下さい。見たことがないという人、自分の見たことがいじめだったのか、単にふざけただけということなのか、いじめかどうかわからないという人はそのところに○をつけてください。その紙を私が見えるように机の上において下さい。

隣の人の紙は見ないで下さい。

(それらの紙を野口が見て)

いじめを見たという人が▲▲人くらい、いじめられたことがある人が▲▲人くらいになるようですね。

4 自分のいじめに対する態度を自覚する

もう一つ質問させて下さい。

もし、自分がいじめを見たら、直接いじめている人に注意するとか、先生やお父さん、お母さんに話すとかして、いじめをなくすために自分は頑張れると思っている人は紙の2の質問の答えの「自分はがんばる」に○をして下さい。そんなことできないと思うという人は「できない」に○をして、わからないという人は「わからない」に○をつけて下さい。

(皆の回答を見て若干のコメントをする)

→ (がんばるに○をつけている人が多いと)

けっこう皆さんがんばってくれようとしているんですね。

→ (がんばるに○をつけている人が少ないと)

どうもあんまり皆さんは自信がないようですね。

5 いじめの怖さ

・いじめというものは、ときには、知らず知らずのうちに起こってしまいます。いじめられた人はとても傷ついているのに、いじめている方は遊びだと思って楽しんでいたり、気づかないことがあります。

・まず、いじめが、どれほど怖いものか。

最悪、どんな結末になってしまうのか、ということから、お話したい。

《Aくん事件》

Aくんという、東京に住んでいた、当時14歳、中学2年生の男の子のお話です。Aくんは、クラスメートに無視されたり、使いつ走りさせられたりしていました。あるときは、フェルトペンで顔にヒゲを書かれて、廊下で踊らされたりしていました。Aくんは、「やめて」と言ったりはしま

せんでした。「きついよなあ」、「まいったなあ」と言って、弱みを見せないようにしていました。そうすると、いじめは、遊びの感覚で、どんどんエスカレートしていきました。

同級生が考えたのは、「お葬式ごっこ」。

同級生が、前の日に、Aくんに対し、「明日は遅刻して学校にこい」と電話をしました。同級生は、黒板に、チョークで、白と黒のしましま模様、幕の模様を描きました。Aくんの机に、お線香、みかん、お花をお供えしました。そして色紙を置きました。

色紙には、Aくんをいじめていなかった生徒からも、「さようなら」「やすらかにねむれ」「バンザイ」と書かれていました。

登校してきたA君は、自分の机がお葬式みたいになっている様子を見て、へらーと笑って、黒板の白黒の幕の模様を自分で消しました。

「おれ、死んじゃったのかよ・・・」とつぶやいたそうです。

Aくんは、同級生の一人に、笑いながら、でも、ぼろぼろ涙をこぼしながら、「てめえ、なんだよ、こんなこと書いてんじゃねえか」と言いました。そして教室を出て行きました。葬式ごっこからしばらくして、Aくんは、学校に来なくなりました。

そして、Aくんは、誰にも行き先を告げずに、東京の実家を出て、帰って来ませんでした。遠く離れた、岩手県盛岡市のデパートのトイレで、Aくんが首をつって自殺しているのが発見されました。遺書は、トイレの荷物台の上に置かれていました。紙袋の切れ端に書かれたものでした。

「俺だってまだ死にたくない。だけどこのままじゃ『生きジゴク』になっちゃうよ。」と書かれていました。

Q Aくんは、どんな気持ちで、縁もゆかりもない遠い土地で、首をつつたのでしょうか。

Q いじめている人は、Aくんの気持ちに気づいていたのでしょうか。

A 気づいていない。

Q クラスの人たちは、本当にA君を自殺させようと思っていじめていたのでしょうか。どう思いますか。

A まさか自殺なんてするとは思わなかった。悪ふざけ。その場のノリ。Aくんのいじめについて書いた本があります。

そこには、いじめに参加していたクラスメートの話が載っています。

Aくんの事件が起こったのは、1986年。皆さんが生まれる前の話。

そのときAくんと同じ年だったクラスメートが、35歳になって、こういうことを言っています。

「実際にいじめていなかったクラスメートでも、その事件から21年経っていても、自分に何かできることはなかったのか、何かできたかもしれないのに、自分がいじめられるかもしれないと思って逃げていたんじゃないか、という思いは消えない。」

Aくんの同級生たちは、今まで、一度も同窓会を聞いたことがないとのこと。また、自分がAくんと同級生だったということを、ずっと隠して生きているとのこと。実際、いじめていた人も、いじめていなかった人も、いじめによって心に大きな傷を負うことになります。それが長い間ずっと消えません。

あなた方の中には、Aくんの事件は、もう何十年も前のことだし、自分たちは葬式ごっこなんかしない、自分たちとは関係ない、と思っている人がいるかもしれません。でも、いじめが苦しくて自殺する人は今でもいます。

もう一つの例をあげましょう。

今からお話しすることはインターネットの情報を基にしたものです。

1994年11月27日の深夜、中学2年13歳のB君は自宅の裏庭の柿の木にロープをかけて、首をつって自殺をしました。詳しい遺書が残されていました。その一部を読みます。

「いつも4人（名前が出せなくてすみません）の人にお金をとられていました。そして今日、もっていくお金がどうしてもみつからなかったし、これから生きていても……。だから……。またみんなとっしょに幸せに、くらしたいです。しくしく。」

家族のみんなへ

14年間、ほんとうにありがとうございました。僕は、旅立ちます。でもいつか必ずあえる日がきます。その時には、また、楽しくくらしましょう。お金の件は、本当にすみませんでした。働いて必ずかえそうと思いましたが、その夢もここで終わってしまいました。そして、僕からお金をとっていた人たちを責めないでください。僕が素直に差し出してしまったからいけないのです。しかも、お母さんのお金の2万円を僕は、使ってしまいました（でも、1万円は××さんからもらったお年玉で、バックの底に入れておきました）

まだ、やりたいことがたくさんあったけど、……。本当にすみません。いつも、心配をかけさせ、ワガママだし、育てるのにも苦勞がかかったと思います。おばあちゃん、長生きして下さい。お父さん、オーストラリア旅行をありがとう。お母さん、おいしいご飯をありがとう。お兄ちゃん、昔から迷惑かけてすみません。○○（弟）、ワガママばかりいっちゃ

ダメだよ。」

B君はまじめなおとなしい優等生でした。

B君と主犯格・CとDは小学校の5、6年生の頃からの遊び仲間でした。小中ともに剣道部で一緒に、釣りやゲームなどで遊ぶ8人ほどのグループでした。小学校6年生の時、同級生の3人が決闘して、一番弱かったのがB君だったことから、いじめが始まったといえます。

中学校に入って1年の2学期ごろ、B君は学校でカバンを隠されたりしました。顔に痣をつけて帰宅したり、自転車の泥除けを壊されたり、前かごの針金を切られたりもしていました。数回自転車を修理した自転車店店主は同校の教師2人に指摘しました。教師がB君に尋ねたところ、B君は「田んぼで転んだ」「自分でぶつけた」などと話していました。

この時から現金（数百円から数千円）をせびられるようになりました。

2年生になると、それまで優等生（学年で10番以内）だったB君の成績は落ち始め、表情も暗く、落ち着きがなくなり始めました。また、グループから授業中に手をあげて発表することも禁止されていたため、教師からの評価も下がってしまいました。

現金の要求は、だんだんその金額が大きくなっていきました。B君は好きなゲームソフトを売ったり、散髪代をうかして工面していました。だが中学生に何万円というお金が用意できるわけもなく、次第に工面に苦労するようになりました。

そしてもっともB君が怖かったいじめが、遺書に凶入りで書かれた川で顔を無理やり水の中につけられるものでした。川の中で足をかけられて、息ができず、力づくで押しえつけられる。やられていたB君はいったいどれほど怖かったのでしょうか。

6 いじめ被害者をどうしたら救えたのかを考える

(1) もし君が心ないいじめで殺されたA君、B君のクラスにいて、彼らのいじめられた行為の一部を目撃したとして、どうやったら2人の命を救えたのでしょうか。誰か考えたことを言ってくれますか。

(手があがらなければ、こちらから指名して数名に言わせる)

でも、結局、そういうふうに助けることは実際に、自分だったらできなかったと思う人はいませんか。

→ (手があがれば)

その理由はなんですか。

→ (手があがらなければ)

みな助けてくれるのですか。でも、実際にはそううまく助けられるでしょうか。

(2) (のび太君の事例)

ここでどうやったらいじめをなくせるか練習してみましよう。

ここで、のび太君がジャイアンにいじめられています。

そばでスネ夫君が面白がっています。

ここに、しずかちゃんがとおりがかったとしましよう。

しずかちゃんがあなたとしたら、あなたはどうかしらいいのですか。

(ある程度自由にいわせる)

しずかちゃん役があなた一人だけだと大変ですね。

でも、しずかちゃんは何人もいれば、きっといじめは止められるでしょう。

(3) ここでいじめを先生や親に言うのはチクリで、卑怯なことなのかどうか考えて下さい。

あなたがA君やB君のクラスメートで、いじめを目撃しました。あなたが、「そんないじめはやめようよ」と言いましたが、みんなはいじめをやめてくれません。この時、あなたはチクリと言われても先生や親に言うべきなのでしょうか。

私はチクリと言われるのが怖くて、友だちを見殺しにして自殺させてしまう方が卑怯なのだと思います。チクリと言われることが怖くて友だちの命を救わないというのは、心が弱いだけで、川で溺れている人を見ても、無視して、通りすぎていく人と同じです。正義とは思えません。

チクラないとは、一体誰のために、何を守ろうとしているのでしょうか。そんなことより、友だちの命を救うことのほうがよほど正義なのではないのでしょうか(ここは断言して、訴える)。

7 「小さな」ことでも、命を奪ういじめと理解させる

(1) Eさん事件

A君やB君の例は、皆さんもひどいなと思ったことではしょうが、一見大したことではなさそうに見えても、本当は被害者にとってはつらいいじめであって死に迫いやってしまう例があります。

Eさんという女の子は、平成14年の小学校3年生のころから、同級生に避けられるようになり、平成16年の小学校5年生のときには、同級生から「すごい気持ち悪い」と言われました。

平成17年4月には、Eさんは6年生に進級しましたが、その年の7月に行われた席替えのときには、多くの同級生から、Eさんの隣の席になっ

た男子がかわいそうだ、と言われたり、「うざい」と言われました。

7月14日には、8月31日と9月1日に実施する修学旅行の班分けがありました。担任の先生が児童が自分たちで班分けをするように言ったら、Eさんだけ女の子の班に入れてもらえずに、男子ばかりの班に入ることになりました。

8月18日には、修学旅行の部屋割りがありました。先生が自分たちで部屋割りをするように言ったら、Eさんだけ部屋が決まりませんでした。それで、先生も交えて話し合いが行われましたが、Eさんは、先ほどの3人の女の子の部屋に入ることになりました。しかし、その3人の女の子は、「どうでもいい」とか、「一緒になっても、しゃべらなくてもいいの」などと言っていました。

修学旅行の日、8月31日には、Eさんは宿泊先のホテルで、「部屋の鍵がない」と言って、自由時間には、一人でエレベーターで上に行ったり来たりしていました。

9月8日は、台風のために臨時休校になりましたが、9月9日の早朝、6年生の教室で、教卓の上に7通の遺書を残して、首つり自殺をしようと思いました。この時は助かりましたが、翌年の平成18年1月6日に、本当に自殺して亡くなってしまいました。

そのときのEさんの遺書です。

■6年生のみんなへ

6年生のことを考えていると「大嫌い」とか「最てい」という言葉がうかびます。(中略) みんなは私のことがきらいでしたか? きもちわるかったですか? 私はみんなに冷たくされているような気がしました。それは、とても悲しくて苦しくて、たえられませんでした。なので私は自殺を考えました。(中略) さようなら

■学校のみんなへ

この手紙を読んでいるということは私が死んだということでしょう。私はこの学校や生とのことがとてもいやになりました。それは3年生のころからです。なぜか私の周りにだけ人がいないんです。5年生になって人から「キモイ」と言われてとてもつらくなりました。6年生になって私がチクリだったのか差べつされるようになりました。それがだんだんエスカレートしました。一時はおさまったのですが、周りの人が私をさけているような冷たいような気がしました。何度か自殺も考えました。でもこわくてできませんでした。でも今私はけっしんしました。(中略) 私はほとんどの人が信じられなくなりました。でも私の友だちでいてくれた人には感謝します、「ありがとう。」それから

「ごめんね。」私は友だちと思える人はあまりいませんでしたが今まで仲よくしてくれて「ありがとう」「さようなら」(後略)

A君の事件やEさんの事件ですが、

いじめている人たちは、A君やEさんが自殺まですると思ったでしょうか。いじめる側が簡単な気持ちでも、死は選択されます。

私が経験した事例では兵庫県でも3人の女子高生が自殺していますし、死ななかつたいじめの被害者のほとんどが一度は自殺を考えています。

仲間はずれにされ、口が大きいなどと似顔絵を描かれたことがきっかけとなって自殺した女子高生の例も私が体験しています。

(2) コップの例

(空のコップを見せる)

Q 1. さて、このコップの水を溢れさせるためには、何滴の水が必要ですか？ (空のコップ)

Q 2. もし既に水がいっぱいに入っていたらどうですか？

A. 1滴。

- ・そう、一滴でいい。いじめで自殺する人の心をコップとすると、この水の1滴がいじめと考えて下さい。ほんのちょっとした悪口でも、それが最後の1滴なら、コップの水を溢れさせることができる。たとえば、「うざい」「死ね」「きもい」という一言が、最後の1滴になるかもしれないのです。
- ・コップの水が見えれば、気をつけることもできます。けれど、実際はコップがどんな状態かは分からない。何気ない一言が、最後の1滴となって、その人を自殺に追い込むことになるのかもしれないのです。
- ・人を傷つけていいか、人を傷つけることにならないか考えないで、その場のノリで発言する、ちょっとくらいで死なないだろうと思っていじめる、なんて、絶対にやってはいけません。
- ・逆に、あなたが水を注がず、ちょっとでもいじめられている人を助ければ、このいじめられている人の心のコップはもっと大きくなるのです。

(3) 講師自身の体験を語る

ここで私自身の体験をお話します。

皆さん、私の顔を見て下さい。私の目を見ていただくと、あれ少し変だなと思った人もいるかもしれません。実は私の左目は、もとはいつも半分ふさがったようになっていました。高校を卒業した時に手術をして、今のようになったのです。

子どもだった私は、この目のことをとても気にしていました。ちょっぴり親も恨みました。写真を写されるのもいやでした。

小学生の頃、「タンゲサゼン」という片目の侍がチャンバラをする映画がありました。それで、子どもたちが私の目を見て「タンゲサゼンだ」と言っ
てはやしたことがありました。私は何も言い返すことができず黙っていました。でもとても悲しかったのです。高校生になって、少し、色気づいてきた時に、よその女子高生から「片目みたい」と言われたことがありました。私は知らぬふりをして聞き流しましたが、その時に私が話した女子高生の顔を50年たった今でもはっきり覚えているのです。

その女子高生は悪い人ではなく、他に私に何かいじわるをしたことは全くなく、私を「片目みたい」と言ったのもいじわるのつもりではなかったの
でしょう。それでも私にとっては、このコップに入る水の1滴だったのです。

8 ちがいを認め合う

人には個性というものがあります。足の速い人も遅い人もいます。体の大きい人も、私のように小さい人もいます。勉強が得意な人も苦手な人もいます。でも、人間の価値は、そんなことで決められるものではありません。でも、私たちは何か皆と違う点があると、それを変だと思ったり、自分で他人と自分は違うのかと悩んだりします。

でも個性はあるのが当たり前なのです。お互い個性を認め合う。このことがいじめをなくす一歩です。

9 いじめをなくす決意の確認

皆さん、短い時間ですし、私は学校の先生のように授業をすることもなく、とても下手な授業でわかりにくく、つまらなかったかもしれません。どうもごめんなさい。

でも、私は皆さんがいじめで殺されたり、心を傷つけられたりすることは何としても防ぎたくて今日ここに来ました。

この学校の先生方も、この学校でいじめで苦しめられる人を一人も作らないという決意をされています。

皆さんのご両親も何よりあなた方が元気であることを望んでいます。いじめられていると思ったら一人で悩まずに、ご両親や先生に相談して下さい。

10 いじめられている人へ

あなたはいじめられる理由は全くありません。あなたはいじめられる理由など何一つありません。あなたはとてもつらく、こわいと思いますが、それはあなたが弱いわけではありません。誰かに助けを求めるのは弱いからでもなく、卑怯なことでもありません。

もうこれ以上我慢する必要はありません。

一刻も早くご両親や先生に相談して下さい。

11 子どもの悩みごと相談

もしどうしてもご両親や先生に相談できなかつたら、お配りするチラシの電話番号に電話して下さい。私達弁護士が相談にのります。秘密は守ります。

12 最後のアンケートに答えて下さい。

初めに配ったアンケートの用紙の下の方に、○か×か△をつけてください。

私の話を聞いていじめについて考え方が変わったという人は○、変わらなかったという人は×をつけてください。どちらとも言えないという人は、△をつけてください。

(アンケートを回収する) たくさんの方がいじめについて考え方が変わったと言ってくれました。私も来て良かったと嬉しいです。

(結びの言葉)

いじめはいじめられる人の心と体だけでなく、いじめる人の心、それを見過ごしている人の心をも傷つけるおそろしいものです。「いじめをなくす」という皆さんの決意を今後も持ち続けて頂き、全員が楽しい思い出を持ってこの学校を卒業して下さいをお祈りします。